

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和3年 5月 11日	
(宛先) 岡 崎 市 長	
提出者 住 所 岡崎市田口町字大藪 1 4 番地 氏 名 有限会社 宇野組 代表取締役 宇野浩 電話番号 0564-46-3116	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	有限会社 宇野組
事業場の所在地	岡崎市田口町字大藪 1 4 番地
計画期間	令和3年度(令和3年 4月~令和4年 3月)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	D06総合工事業
②事業の規模	元請け完成工事高: 20246万円
③従業員数	25人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	建物解体工事 現場にて廃棄物の種類別に分別仕訳 がれき類→再生処理業者に委託→再資源化 木くず→再生処理業者に委託→再資源化 廃プラスチック類→再生処理業者に委託→再資源化・焼却・埋立 混合物→中間処理業者に委託→選別後→破碎・焼却・埋立 石綿含有廃棄物→埋立処分場に搬入→埋立

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
<p>(管理体制図)</p> <p>総括責任者 代表取締役</p> <p>↓</p> <p>廃棄物処理方針の検討、 担当役員・営業</p> <p>↓</p> <p>マニフェスト (発行・回収・登録) 担当役員・総務</p> <p>↓</p> <p>マニフェスト管理 担当役員・総務</p>		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（令和 2年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	建設廃材
	排 出 量	10.567 t t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	建設廃材
	排 出 量	15.000 t t
	(今後実施する予定の取組) 廃棄物の種別仕分の細分化 中間処理場持込の多種化 リサイクル可能な廃棄物を再分別 分別困難混合廃棄物の発生を少なくする	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 解体に伴う発生材 重機及び人力手作業分別	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 重機作業前に可能な限り人力作業にて分別 人力手作業分別の熟練 作業員への廃棄物の勉強会・教育会を行う。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)	t	t
	【目標】		
②計画	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組)	t	t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設廃材	
	全処理委託量	10.567 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	1.306 t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 優良処理業者との新規契約		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設廃材	
	全処理委託量	15.000 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1.500 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	10.000 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>優良処理業者との委託契約を増やす。 新規契約をして、搬出量を優良処理業者に順次移行。 委託先処理業者には不定期に実地確認を実施</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。